

令和3年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づき、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

なお、令和 3 年度は引き続き新型コロナウイルスの感染拡大を受けながらも、当財団として様々な感染防止対策を講じながら事業の実施に努めました。

令和 3 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組みました。

なお、令和 2 年度に中止となった展覧会を 1 年延期して、春の企画展「描かれた養蚕－蚕織錦絵の世界－」、秋の特別展「第 26 回全国染織作品展」を開催しました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めました。特に、収蔵作品の公開と保存のバランスを考慮し、適宜展示替えを行いながら江戸の小袖や優れた現代作家の染織作品などを紹介しています。また、エントランス円形ステージでは季節ごとにテーマを設けて繭クラフト展示を行いました。なお、時代復元衣装人形 4 軀（平安時代男・女性、桃山時代女性、江戸時代女性）の着装を実施し展示替えしました。

イ 春の企画展

「描かれた養蚕－蚕織錦絵の世界－」

[会 期] 令和3年4月24日(土)～6月6日(日)

当館所蔵の蚕織錦絵から選りすぐっておよそ50点の作品を展示し、バラエティに富む蚕織錦絵の世界を紹介しました。美術品としての錦絵鑑賞を楽しんでいただくとともに、錦絵が描かれた当時の風俗や世相、時代背景などが感じ取れる展示としました。

ウ 秋の特別展

「第26回全国染織作品展」

[会 期] 令和3年10月23日(土)～11月28日(日)

次代を担う新進作家の育成等を目的に、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ、入選作品73点を一堂に展覧しました。

(2) 教育普及事業

ア 「チャレンジ!かいこプログラム」

(ア) 蚕種配布

[期 間] 令和3年5月13日(木)～5月15日(土)

県内の小学校等を中心に、蚕の卵(蚕種)や人工飼料を有償頒布しました。また、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講しました。

(イ) 「かいこ教室」

[期 間] 令和3年7月24日(土)～8月9日(月・祝)

小学生等が蚕からシルクまで一貫して学べるように、保存蚕品種・野蚕の飼育展示、蚕の生体観察の他、繭人形、生糸のランプシェード、真綿のスタンドを作る体験等を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 毎月1回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作りのほか、生きた蚕の観察とシルクについての勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 令和3年12月11日(土)～令和4年1月16日(日)

「チャレンジ!かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や幼稚園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演・講習会、真綿からの太糸作り実演、手紬糸作り実演、ハンカチ染め体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により9月実施予定の「小さなシルクのハンカチ染め」「スカーフ染め」は中止しました。

ウ 外部講師による講座

「かいことその仲間の生態・最新の研究について」

[開催日] 第1回：令和4年1月15日(土)

第2回： 2月12日(土)

第3回： 3月12日(土)

蚕について、その生態や医療利用等の最新の研究まで、専門家を講師に招き全3回にわたり様々な側面から考察しました。なお、本講座は令和2年度実施予定でしたが、中止となったため1年延期して実施しました。

エ 学芸員によるギャラリートーク

[開催日] 令和3年4月3日(土)、10月2日(土)、
令和4年2月5日(土)

常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を学芸員が来館者へわかりやすく解説しました。

オ 博物館実習生の受入れ

[期 間] 令和3年7月20日(火)～ 8月9日(月・祝)

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、9名の学生を受け入れ、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)などの実習を行いました。

(3) 連携事業

「シルキーウィンターフェスティバル」

[期 間] 令和3年12月11日(土)～令和4年1月16日(日)

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、関東学院大学、クラシック・ヨコハマ等と連携し、「シルキークリスマス」（12月19日（日））等を実施しました。

(4) 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ホームページやツイッターの積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

(5) 博物館月別入館者数（別紙）

2 シルク等普及推進事業（継続事業）

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、シルクの普及、販売促進活動等の支援に努めました。

(1) シルク等普及活動事業

ア 「シルキーウィンターフェスティバル」（再掲）

若い世代を中心に多くの方々に、シルクの魅力等について広く理解し関心を深めていただくことを目的として、令和3年12月11日（土）～令和4年1月16日（日）まで開催しました。

イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

(2) 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

博物館月別入館者数

(単位 人)

区分 月別		日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
		一般 シニア 学生 子ども	団体	計	一般 シニア 学生 子ども	団体	計		
令和 3年	4月 (22日)	392	112	504	14	0	14	518	0
	5月 (26日)	905	202	1,107	14	2	16	1,123	0
	6月 (23日)	707	725	1,432	6	1	7	1,439	505
	7月 (27日)	791	601	1,392	4	3	7	1,399	510
	8月 (25日)	575	468	1,043	2	0	2	1,045	629
	9月 (23日)	434	91	525	6	2	8	533	827
	10月 (23日)	651	371	1,022	6	3	9	1,031	1,034
	11月 (24日)	1,776	1,381	3,157	11	0	11	3,168	1,375
	12月 (18日)	1,257	658	1,915	8	1	9	1,924	973
令和 4年	1月 (23日)	917	296	1,213	3	0	3	1,216	272
	2月 (23日)	533	51	584	2	5	7	591	326
	3月 (27日)	1,018	503	1,521	7	0	7	1,528	975
合計		9,956	5,459	15,415	83	17	100	15,515	7,426
月平均		830	455	1,285	7	1	8	1,293	743

() 開館日数

Ⅱ その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入館率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

ア 部室賃貸等収入

部室賃貸料金	379,338千円
諸料金	83,872千円
計	463,210千円

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から60年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、耐震補強工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

耐震補強工事（1階第7期A-東・西工区）	60,280千円
PCB廃棄処分費用（第3回処理分）	11,894千円
別館101号室他空調機更新工事	11,567千円
地下1階配電盤更新工事	4,092千円
海側部室（8～10階）エアコン点検用小窓改修工事	3,960千円
積算電力計更新工事	1,443千円
計	93,236千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場はタイムズ24（株）に運営委託しました。

(1)	立体機械式車庫収入	
	車庫使用料金	9,134千円
(2)	平面駐車場収入	
	駐車場使用料金	23,451千円